

ご取材のお願い

平成 24 年 8 月 1 日
特定非営利活動法人よつくらぶ
公益財団法人ヤマト福祉財団

道の駅よつくら港「交流館」完成式典 並びにオープニングイベントが開催されます

公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金※」の第 1 次助成先の一つである特定非営利活動法人よつくらぶが運営する「道の駅よつくら港交流館」が竣工し、完成式典並びにオープニングイベントを 8 月 11 日（土）午前 10 時より執り行います。

平成 21 年 7 月にオープンした『道の駅よつくら港「交流館」』は日本で唯一港の中にある道の駅として地域の生産者と密接な関係を持ち、農・水産物を提供する重要拠点として、190 人の生産者による直売所、地ものを使った料理を提供するレストランなどを有し、地域雇用の場として、また地域交流の場として年間 60 万人が利用する施設でした。

その『道の駅よつくら港「交流館」』は東日本大震災の津波により甚大な被害を受けました。大半の機能は失いましたが、震災直後は被災者支援を行う場所として活動は続けました。一方、『道の駅よつくら港「交流館」』を支えてきた地元の農業・水産業者は、原発事故による農水産物の出荷停止、風評被害に追い込まれます。

ヤマト福祉財団では多様な機能を持つ『道の駅よつくら港交流館』の復旧は地元産業と雇用の再生の場として不可欠であると考え、昨年 8 月に 1 億 8000 万円の助成を決定致しました。今年 1 月 17 日には地鎮祭が行われ、このたびの竣工に至りました。津波と原発事故から立ち直る地域の復興シンボルとして『道の駅よつくら港「交流館」』が動き出します。



（被災直後の道の駅よつくら港交流館）



（完成後は災害支援拠点としても機能）

福島県、そして東北の復興は途上にありますが、震災による被害を乗り越え、いち早く復旧・復興に取り組む本式典を何卒ご取材賜りますよう、お願い申し上げます。

本件に関する報道関係の皆様方からのお問い合わせは下記までお願いいたします。

特定非営利活動法人よつくらぶ 担当：白土 （0246-32-8075）

公益財団法人 ヤマト福祉財団 担当：早川・渡辺（03-3248-0691）

記

1. 完成式典

日時 平成24年8月11日(土) 午前10時00分～午前11時00分
場所 道の駅よつくら港「仮設大型テント」(北側駐車場内)

2. オープニングイベント

日時 平成24年8月11日(土) 午前11時00分(テープカット)開場
平成24年8月12日(日) 午前9時00分開場
場所 道の駅よつくら港「交流館」及びふれあい広場

3. 主な出席者(敬称略)

- (1) 特定非営利活動法人よつくらぶ 理事長 佐藤 雄二
- (2) いわき市長 渡辺 敬夫
- (3) 国土交通省東北整備局万磐城国道事務所長 小澤 康彦
- (4) 福島県いわき地方振興局長 小林 武正
- (5) 福島県小名浜港湾建設事務所長 山口 登
- (6) 公益財団法人ヤマト福祉財団 理事長 有富 慶二

4. 施設概要

(新施設) 鉄骨 造り2階建て 建築面積: 493.2㎡、延面積: 930.1㎡
防災機能(緊急避難場所、雨水貯水槽、非常用発電機等)を有する農水産物直売所
並びに、太平洋を一望できるフードコートのある施設

(旧施設) 木造造り平屋建て 建築面積: 553.6㎡、延面積: 498.8㎡

※ 公益財団法人ヤマト福祉財団「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」は、東日本大震災で被災された地域の生活基盤の復興や水産業・農業の再生を支援することを目的に創設されました。6月30日をもって募金と助成の募集は終了させていただきました。募金につきましては、142億円3608万1360円となったヤマトグループの「宅急便1個につき10円の寄付」をはじめ、広く一般から募金をたまわり、総額142億7426万4524円となりました。助成につきましては、見える・速い・効果の高い支援を基本方針に国の補助のつきにくい事業や単なる資金提供だけでなく新しい復興モデルを育てるために役立てていくことを目指して、第5次までに助成対象31件に対し、総額142億6600万円の助成を行っています。詳細につきましては、ヤマト福祉財団のホームページ(<http://www.yamato-fukushi.jp/>)をご参照ください。